

金丸 恭文

1

989年11月にサラリーマン生活を終え、希望と不安を胸に起業した。年末は日経平均約3万9000円の株価で、多くのエコノミスト達が、来年は4万〜5万円と予想。景気の動向に不安はなく、大きな夢を持ち正月を過ごした。新しい年を迎えた途端、予想に反して株価は大きく下がり、株式公開を果たした1999年までの10年間ずっと右肩

下がりの経済環境の中、若い仲間と共に必死で経営の舵取りをした。

それからまた10年近く経過した今、リーマンショックが襲った。今回の景気回復は5年かかるとか、麻生総理は全治3年と言っている。

先が暗い危機に際して思うことは、こういうタイミングこそリーダーの出番だということである。苦しい戦場で諦めずに生き残るためには、知恵を振り絞り迷いを断ち切って決断し、しかも「正しい」ことが要求される。世界の歴史の中でリーダーたちの英断は数知れない。

先日、東京国際映画祭のチェアマンである依田巽氏のご厚意でグリーンカー

リーダーの出番



副代表幹事
政治委員会 委員長
フューチャーアーキテクト
取締役会長

ペットを歩かせていただいた。オープニングは『M.I.2』でおなじみのジョン・ウー監督が「三国志」の赤壁の戦いを描いた作品『レッドクリフ Part II』。曹操、劉備、孫権と、軍師・諸葛孔明や勇臣たちの知恵と勇気の映画が上映された。西暦2008年の歴史が混迷の2008年に上映されるのも不思議な因縁だろうか。80万の大軍に5万で戦いを挑む。苦境でも人民を第一に考える。

「リーダーとは？」を大いに問いかける作品であった。われわれ経営者も顔を合わせると、不景気だと言っている場合ではないと思う。火元がどこだったかは別として、今は生死を賭けた戦いへ突入してしまったのだから。守備に徹するのによし、果敢に打って出るのによし。5年後には「英断」の結果は出る。

1929年世界大恐慌の時代にも、新しいアイデアで事業展開をしようとする起業家たちが多く存在した。先輩企業が意気消沈する中、失うものの少ない若者や挑戦者にとってはビッグチャンスだったに違いない。1933年3月4日就任直後のルーズベルト大統領は「われわれが恐れなければならないのは恐れることだけである」と激励スピーチをした。

利益はリスクから生まれるのだから、今こそ「リーダーの出番」である。

Contents

001 ● 巻頭言 金丸恭文	リーダーの出番
002 ● 特集	学校と企業・経営者の交流活動 2008 レポート
011 ● リレートーク 横尾敬介	一泊二日の歴史ロマン～タイムスリップの旅？
012 ● 委員長インタビュー	経済情勢・政策委員会 細谷英二
013 ● 経済同友会最前線	経済情勢・政策委員会意見書、教育問題委員会パネル討議 ほか
022 ● コペンハーゲン通信	金融危機とデンマーク
023 ● 同友会スケッチ	2008年10月の記録と12月の予定
025 ● 新入会員紹介	2008年10月17日現在の入退会者
026 ● 私の思い出写真館 斎藤博明	インド放浪